

いぬはりに

vol.

02



Creator's voice

三浦太郎インタビュー

古きよき時代の
ノスタルジーを現代へ

子どもの心と感性を育てる

「あゆみ」

Jakuetsu research

屋外でおこる、
遊具事故の実態は…？

北欧だより

子どもたちの成長を育む、
スウェーデンの森

Taro Miura

1968年愛知県生まれ。'91年大阪芸術大学卒業後、デザイン事務所に席を置き、フリーのイラストレーターとして活動。第59回ザ・チヨイス入選。'01年以降ポローニャ国際絵本原画展で4回入選。絵本、広告、キャラクターなどを中心に活動中。「平成17年度版 小学校国語教科書」(光村図書)表紙絵も担当した。



Creator's voice

三浦太郎インタビュー

古きよき時代のノスタルジーを、現代へ

ポローニャ国際絵本原画展の入選作品をスイスやイタリアの出版社から刊行している、注目の絵本作家・イラストレーター、三浦太郎さん。

スパッタリング技法を用いたその絵は、新鮮でいてノスタルジックな世界。

今回、三浦さんとジャクエツのコラボレーションで'06年度新学期用品「あゆみ」ニューバージョンが完成。初夏の昼下がり、東京・千駄ヶ谷にある三浦さんのアトリエをたずねました。





01



02



03



01 『JE SUIS...』

(スイス・La Joie De Lire社より出版)

’03年ポローニャ展入選作品「I am...」を絵本化。だれもが持っている、人間の性格や気分をシンプルに描いた作品。現在、フランス語圏を中心にヨーロッパやカナダで販売されているが、日本語版の発売も予定されている。

02 『TON』

(イタリア・Corraini社より出版)

’04年ポローニャ展・ノンフィクション部門入選作。“重さ”をテーマに描いた作品。20kgの鉄骨、10tのコンテナ…と単位と運ぶものの関係をビジュアル的に表現。紙の質感や観音開きのページなど、随所にちりばめられた仕掛けも楽しい。

03 『TOOLS』

(イタリア・Corraini社より出版が決定)

’05年ポローニャ展・ノンフィクション部門入選作。いろいろな職業に携わる人物と、それぞれに必要な道具を描いた作品。1つ1つの職業を調査・整理し、三浦さん独特の視点で表現された絵は、印象深く、想像力をかきたてられる。

——絵本作りのきっかけは？
もともと、ぼくは広告デザイン業界にいた人間。絵本作家になろうとは考えていませんでしたが、ある時、日本で開かれたポローニャ国際絵本原画展を訪れ、作品に興味をもちました。

”5点シリーズを1セットで応募”という条件も面白いし、あまり時間もかからず仕事の合い間に描けそうだと(笑)。それがきっかけですね。

’01年初入選から何かが変わった？
入選をきっかけに絵本への手ごたえを感じ、実際にポローニャを訪れて出版社に売り込みをし、スペインの出版社から仕事をもらうなど、ぼくにוות新たな出発点となりました。

今年のポローニャ入選作は「TOOLS」ですね。

そう、さまざまな職業の人たちと、それぞれにまつわる道具をテーマに描いたノンフィクション作品です。

——作品を描く手法とは？
Macを使いますが、ぼく自身はデジタルな作品だと思っています。もともとは全て手でおこなっていた細か

い部分、例えば実際に紙を切ってマスキングしていた作業を、画面上できれいに切ったり、線を描いたり、色をつけたり、パソコンは便利なツールとして使います。でも、あまいな線が出ないのは惜しいと思うときもあって…。

きつちり仕上げられるのはいいんだけど、いい意味でのズレやゆがみはなくなってしまう。ぼくは、海外の古い絵本をたくさん集めています。独特のゆがみがあり、味があります。

——三浦さんの作品に使う“色”はどんなふうにより出す？
歯ブラシと網を使って色を霧状に散らす。“スパッタリング”技法を用います。これを、子どもたち向けのワークショップで挑戦してもらったら、どの子も楽しそうにチャレンジしていました。

でも、実際の作品を作るときに一つ一つ手作業で進めていたら、とても時間がかかるので、ある程度使いたい色のスパッタリングができれば、それをパソコンに取り込み、自分なりのカラーチャートを作ります。デジタル技術で省略できる部分は上手に補おう



Macを使って色や形、デザインを調整。味わい深く温かみのある独特の風合いは、大好きなロシアの古い絵本が原点だそう。

と工夫しています。

——アイデアが生まれるきっかけは？
最近の流れは大きく二つ。一つは、自分の子ども(2004年7月生まれの長女)と遊んでいるとき。今まで自分では意識しなかった、新たな作品のひらめきを感じます。もう一つは、古いものに興味を持ち、尊重する気持ちから。ぼく、未来的なものに全く興味ないんです。携帯電話より糸電話に惹かれるし(笑)。自分のアイデアに古いもののよさやノスタルジックなイメージをリンクさせ、それを現代にらせん

状によみがえらせたい。それがぼくのテーマだと思っています。

子どもの心と感性を育てる

「あゆみ」

子どもの園生活に欠かせない、先生や家庭をつなぐコミュニケーション・ツール、ジャクエツの'06年度新学期用品「あゆみ」が勢ぞろいしました。

今回は、駒形克己さんや三浦太郎さんの手がけたものなど、デザイン性豊かでクオリティの高い、ニュータイプの作品が登場。

“子どもたちの楽しい毎日を応援したい” —ジャクエツの「あゆみ」にこめた思いです。



「あゆみ」シーズン（制作あゆみ）

作家・駒形克己、(本体・シール) ¥690 (税込)

ジャクエツとの開発商品「KOMAGATA BRAND」の第4弾。月ごとに季節にあった動植物が表情豊かに描かれ、好きな場所にシールを貼って一枚の絵を完成させていく。子どもたちの感性を育み、毎日の登園がより楽しくなりそう。



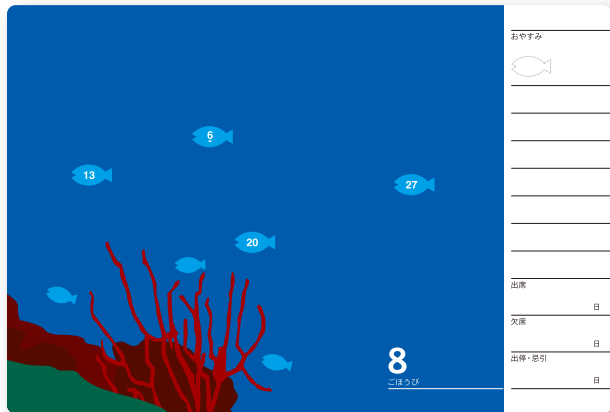
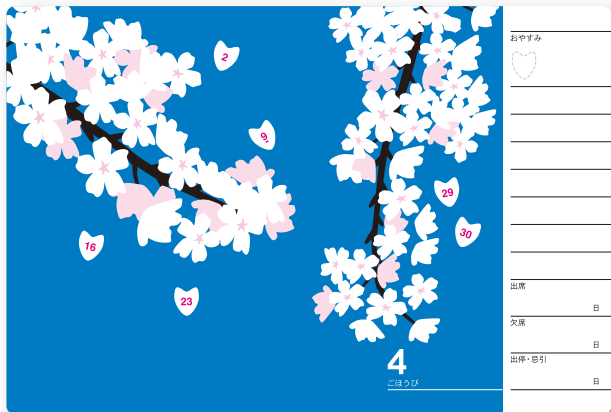
「あゆみ」の原型となった、発売当初の「そのたより」(1955年のカタログより転載)。今も昔も変わらず、子どもと先生、家庭を結ぶツールとして、大切な役割を果たしてきた。'06年度「あゆみ」には、自分で物語や絵を作っていく楽しさをプラスした作品も登場。季節の移り変わりとともに、想像力や感性もぐんぐん枝葉を広げます。

現在の「あゆみ」の前身となる、園児用の出席ノート「そのたより」は、戦後の昭和20年代に制作し、販売開始されました。

当初はまだカレンダーに貼る日付用シールはなく、動物や花などをデザインしたゴム印を押す形式。その後シールが登場し、昭和30年代前半に名称が「あゆみ」に変更。現在に至るまで、園児たちの成長を見守ってきました。

“毎日の通園をより楽しく——。'06年度「あゆみ」制作にあたってジャクエツは、従来仕様の商品(カラー、ラウンド、ワイド、デラックス)をリニューアル。手描きの作家にこだわり、やさしいタッチのイラストから温もりが伝わります。

また、新たな試みとして、造本作家



「初めは、今日はどこにシールを貼ろうかな?」と楽しみながら貼り、シールの数が増えてくると今度は、「どんなふうに変更させていこうか?」と工夫が生まれてきます。シールを貼りながら絵を理解し、自然に「構成力」が養われ、やがて絵心へと発展していきます。」

ページをめくれば、「どうして、はっぱはみどりいろ?」「どうして、くもはしろいの?」など、自然に「外の世界」へ子どもの興味がかう工夫も、季節の移りかわりとともに考え、学び、心を育む子どもたち。一冊の「あゆみ」から、一人一人の発見と感動が始まります。

の駒形克己さん、イラストレーターの三浦太郎さん両氏とコラボレーションし、今までにないタイプの「あゆみ」開発に挑戦しました。駒形さんは、子どもが主役になれる「あゆみ」を、と発案。「現代はモノや情報にあふれ、子どもたちは与えられてばかり。本来、子どもたちに備わっている主体性は、遊びの中で自然と発揮される。ほんの少しのヒントやきっかけから自由な発想が生まれ、ちゃんとルールを理解していく……。」

駒形さん作「あゆみ シーズン」は、子ども自身が考えながら季節をめぐり、それぞれの絵を完成させる、全く新しいタイプ。「100%満足する絵作りをするのでなく、むしろ「不足」している部分を、シールを貼る「ことで満たしていく、そんな表現を心がけています」と制作意図を語る駒形さん。

'06年度新学期用品「あゆみ」 ラインナップ

4

出席 日 / 欠席 日 / 出席動引 日

.....
.....
.....

ごほうび

バスにのって、
しゅっぱつだ。

にちようび	けつようび	かようび	すいようび	もくようび	きんようび	どようび	
1	2	3	4	5	6	7	
8	9	10	11	12	13	14	
15	16	17	18	19	20	21	
22	23	24	25	26	27	28	
29	30						みどりのひ



「あゆみ」ニューワイド (あゆみ絵本)

作家・三浦太郎、(本体・シール) ¥620 (税込)
黄色いバスに乗って出発進行！白を効果的に残したレイアウトは、洗練された印象。ごほうびシールは外国コイン風バージョン。お楽しみ工作ページ付き。



「ぼくが園児なら、どんな「あゆみ」が楽しいかな？」と想像しながら制作したと語る、イラストレーターの三浦太郎さん。三浦さんの「あゆみ」は、余白を効果的に残したレイアウトが印象的な、センスあふれる絵本のよう。「おもしろそう」と引き受けた仕事でしたが、企画の段階で初めて、ページ数や大きさなど、さまざまな条件があることに気がつきました(笑)。全体の統一感を出すポイントは、季節の流れくらいだし…。それなら、子どもが毎日シールを貼る作業と1年間ページをめくる作業、これをおもしろく楽しくするにはどんな演出をしよう？と頭をひねったアイデアが、「昔のファミコン風」。とはいえ、ぼく自身あまりゲームをやったことがないので、あくまでもイメージとしてですが…。

まず、各月の共通アイテムとして、黄色いバスが登場。1ページごと(各月ごと)にストーリーがあり、毎日出席して先生からシールをゲットし、マスを埋めることができたためだけに一面クリア！画面がスクロールして次のステージへ…というイメージ。たとえば2月は、「橋」がテーマ。「みんなのバスが安全に渡れるよう、シール(橋の材料)を埋めて、橋を完成させよう」と先生の言葉がけから、子どもたちでストーリーを作り、楽しみながら貼ってくれるとうれしいです」

ジャクエツと三浦さんによる、初の



「あゆみ」ラウンド

作家・松井しのぶ、¥400 (税込)
エアブラシと色鉛筆で表現された、手描きのやわらかなイラストが毎月ごとに満載。「自然」をモチーフにした、年少向けあゆみの決定版です。



「あゆみ」カラー

作家・城ゆきえ、西内としお、染谷小百合
¥360 (税込)
4～7月は「おやゆびひめ」、8～11月は「ももたろう」、12～3月は「おおかみと7ひきのこやぎ」。4ヶ月で1話、全3話の物語が詰まった、ミニ絵本あゆみです。

「あゆみ」デラックス

作家・菅谷暁美、¥450 (税込)
テーマは「動物たちのお店屋さん」。“うさぎのお花屋さん”など、表紙には各商店の店主が集めた、にぎやかなイラスト。パステル調のやさしいタッチに心がなごみます。



「あゆみ」ワイド

作家・小野孝一、¥400 (税込)
おなじみ小野孝一先生による「四季」シリーズのあゆみが登場！まるで絵本のように味わい深い、油絵作品の上品な仕上がりが魅力です。



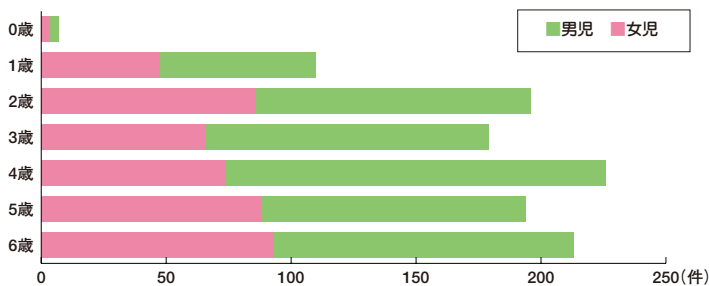
「子どもたちと先生が想像しながらお話を考えてほしい。より想像しやすくするため、絵に登場する主人公（妖精？）も、男の子なのか女の子なのか、分からないようにしています。」
わくわくしながら作り出す、子どもたちの楽しい物語。松井さんの「あゆみ」には、子どもたちみんなの“夢”が詰まっています。

年少向けとして人気の「あゆみ ラウンド」は、絵本や絵本雑誌等を手がけるイラストレーター・松井しのぶさんの作品。「絵のモチーフは日常生活の中にあるできるだけ本物に近いもの（＝自然物）を採用し、できるだけ原色を用いず、自然の細やかな色使いを心がけています」と話す松井さん。
人間の色彩感覚は幼児期（3歳頃まで）にほぼ決まってしまうといわれ、幼児期の子どもの自然の色の微妙な変化を理解できるため、その時期に多くの自然や原画と触れ合い、色彩感覚を養うことが大切と言われています。それをふまえた松井さんのイラストの中には、「抽象的なもの」が意識的に多く描かれています。

コラボレーション作品。特大のごほうびシールは外国コイン・風豪華バージョン、巻末には工作ページ付きで、遊び感覚もいっぱい。出席ノートという枠を越え、モノづくりや絵本の楽しさも味わえる「あゆみ」になりました。
主人公は男の子？女の子？
想像力をふくらませよう

屋外でおこる、 遊具事故の実態は……？

子ども達は、公園や園庭など屋外で遊ぶのが大好き。しかしその背景には、TVや新聞などでよく目にする、後を絶たない遊具事故があります。そして事故防止対策として2002年10月に（社）日本公園施設業協会より「遊具の安全に関する基準（案）JPA-S:2002」が発表され、遊具に対してさらなる安全確保が求められるようになりました。今回は、その遊具事故について国民生活センターに寄せられた情報を調査しました。



上記のグラフは1997年度～2002年度に国民生活センターに寄せられた、屋外でおきた遊具事故情報を年齢別と性別に分けたものです。事故件数の全体は1799件。年度別では97年度が285件、98年度が257件、99年度が343件、2000年度が313件、2001年度が333件、2002年度が268件でした。年齢別では、7歳未満の子どもが1125件で全体の63%を占めており、その内訳は1～2歳が306件、3～4歳は405件、5～6歳が407件で、3～6歳の事故が比較的多いようです。性別では男児が668件、女児が457件で男女比およそ6:4となり、男児の方がやや多い結果でした。事故の原因となる主な遊具の種類は、滑り台、ブランコ、箱型ブランコ、鉄棒、うんてい、シーソー、ジャングルジムなど。事例から検証したところ、物的要因として、転落した際に遊具基礎となるコンクリートに頭部を強く打って怪我をする場合など、遊具側に何らかの問題があったもの。また人的要因として、他の子どもとぶつかって転落し怪我をするなど、子どもの遊び方に問題があったものなど様々です。（2003年8月6日 国民生活センター「危害情報からみた屋外遊具の事故」より抜粋）

安全に配慮した 素材と設計の遊具パーツ。

国民生活センターに寄せられた事故情報をみると、件数が一番多いのは幼稚園、保育園児の年代で、その原因は様々です。ジャクエツも遊具メーカーとして、子ども達に楽しんでもらう遊具をつくる事はとても大切ですが、同様に事故原因の1つである、物的要因による事故防止に繋がる安全対策も重要課題です。従来から安全な遊具開発は行ってきましたが、今後もさらなる安全に配慮した開発が必要とされます。その取り組みの1つとして、単体、または総合



⑥ゴム製ピラーソケット ⑤ゴム製ジョイント金具 ④JSコーティングデッキ ③ボルト用樹脂キャップ ②チューブスライダー ①タラップ



GREEN GREEN FARM ベーシック
サイズ：全長8.34×幅2.80×高さ3.85m

大型遊具に使われている遊具パーツの敷点を、素材と設計の視点からどのように安全対策に配慮しているか、ご紹介させて頂きます。

①タラップ

タラップは滑り台の階段に使用するので素材が樹脂製になっており金属では出せない形状で角全体に大きな丸みを持たせ衝突した時の衝撃を和らげます。またその素材がもつ弾力も効果を発揮します。

②チューブスライダー

チューブスライダーは樹脂製品でしか出来ない成型方法により、トンネル型の滑り台にする事で滑っている時の落下を防ぎ、上半分を透明樹脂にする事で中の様子も見られる様になっており死角をなくしています。

③ボルト用樹脂キャップ

ボルト用樹脂キャップは遊具の部品を固定する際に使用する硬い金属製のボルト・ナットを子どもの体に触れない様にするために覆うものです。

④JSコーティングデッキ

JSコーティングデッキは金属製の鉄板に柔軟性のある特殊樹脂をコーティングしたものです。柔らかい踏みごこちは脚への負担を軽くし、転倒時には身体への衝撃を和らげてくれます。

⑤ゴム製ジョイント金具 (開発中)

ゴム製ジョイント金具は遊具の接続部に使用する金属製のジョイント金具を柔軟なゴム素材で覆ったものです。不意に衝突してもその衝撃を和らげてくれます。

⑥ゴム製ピラーソケット (開発中)

ゴム製ピラーソケットは遊具の支柱の脚元に取り付ける金属製のソケットを柔軟なゴム素材で覆ったものです。転倒や転落の際におこりうるピラーソケットへ衝突した時の衝撃を和らげてくれます。

◎ 北欧だより

子どもたちの成長を育む、スウェーデンの森



今日のカードは松ぼっくり、コケ、カタバミ、テントウム虫…。
「どこに隠れてる？」森のかくれんぼ遊びは楽しさいっぱい！



スウェーデンの家庭はほとんど共働き。保育園では満1歳から入園を受け付けています。首都ストックホルムから南へ約30キロの郊外にある公立保育園ガンメルゴーデンでは、雪解けた4月から寒くなり始める9月までの期間、毎週水曜の午前中に近くの森へ出かけています。1〜3歳の年少組は園から300メートルくらい先にある森のはずれまでお散歩。よちよち歩きの子は、2人乗り乳母車に乗ってでかけます。年長組は園から500メートルほ

ど先にある森の遊歩道へ入ります。森の中のでこぼこ道には大きな岩や倒れた木があり、それら乗り越えてさらに500メートルほど先が目的地。「前に来たとき、木はここに倒れてなかったよ」「きれいな花が咲いたね！」など、子どもたちは散策中の発見を口々に話します。

ベテラン保育士のベリット先生は「森を訪れることは、自然好きなスウェーデン人にとって、ごく普通のこと」と言います。確かに、ストックホルム市内から車でほんの20分も走れば森や湖など自然の溢れる環境に身を置く事が簡単にできるのは、スウェーデンならではの。森の散策は子どもだけでなく、老若男女に愛されている気分転換の方法です。

「幼児教育の面でも利点がたくさん。森の起伏の多い環境を走り回るのはよい運動になるし、さまざまな動物を観察できます」と先生。

森の広場に到着した子どもたちは、輪になって歌を歌い、持参した果物を食べます。食べ終わった果物のカスは、りんごの芯なら森に住むノロジカク食物になるのでその場に残し、バナナの皮は食べられないので持ち帰ります。

さあ、ここから子どもたちの楽しい時間。先生は一畳ほどの大きさの白い布にマジックで野線を引いた



ものを地面に敷き、動植物のカードを並べます。今日のカードは松ぼっくりにシダ、コケ、カタバミ、ナメクジ、ミミズ、カタツムリ、テントウム虫…。「どこに隠れているかな？ みんなで探しましょう！」森の中からカードと同じ動植物を探し、見つけたものを布の上に置く、自然のかくれんぼ遊びです。さっそくカタバミの群生を見つけた子どもたち。「かじってごらん」と先生。「レモンの味がする！」とみんなはビックリ、うれしそう。

集めてきた動植物は、先生と一緒におさらいした後、元の場所に返すのがルール。子どもたちにとって森は、なくてはならない自然の先生なのです。

文・写真/岡田幸(在・スウェーデン)

作家さんに聞いてみました

いよいよ夏も本番。海水浴、プール、お祭り、花火、キャンプ、かき氷…子どもたちにとって、ワクワクする季節の到来です。今回は、ジャクエツで絵画の販売をさせていただいている、童画家の原尚子さんと小野孝一さんにインタビュー。お二人の絵には、子どもたちへの愛情がたっぷり。真夏の蒸し暑さも吹き飛びそうなパワーを発信しています。

- 質問① 作品を通して伝えたいメッセージとは？
- 質問② 童画作家になった理由を教えてください。
- 質問③ 何からインスピレーションを受けて描くことが多い？
- 質問④ 自分の幼稚園・保育園時代の思い出は？
- 質問⑤ 幼稚園・保育園の先生方に一言メッセージを。

01 原 尚子さん

- ① 子どもは、いろいろな面を持っている一つの人格だと思います。私はその中から、キラキラした天使の部分を取り出して描きたいと思っています。
- ② 幼い時から人を描くのが好きでしたが、20代のころヨーロッパを旅したとき、特に心をひかれたのが各地の子どもたちでした。その時、自分の特性を自覚しました。
- ③ 絵を描いている部屋の外から時おり聞こえてくる、子どもの笑い声。つい窓に駆け寄ってしまいます。
- ④ 幼稚園の時、友だちに頼まれて、みんなのお絵描き帳に順番に女の子の絵を描いていたこと。
- ⑤ たくさんの幼児と向き合う先生方は、大変な、そして大切なお仕事をなさっています。できるだけ、子どもの楽しい面を見るようにすると楽だと、私は育児から学びました。



原尚子さんの作品
「水あそびの子供たち」
絵サイズ：20号
油彩

02 小野孝一さん

- ① 私の絵を見ていただく皆様の心に、何かを感じるものを書きたいと、つねに心がけて制作に取り組んでいます。
- ② 30歳を過ぎたころ、絵本作家の柿本幸造先生のすばらしい原画に出会い、私もこのように、見る人たちの心に残る絵を描きたいという憧れからです。
- ③ 言葉遊びや、動物たちのちょっとした仕草や行動から、そのイメージをふくらませています。
- ④ 幼少時代は、毎晩とっていいほど、いろいろな夢を見る子どもでした。また日常では“ぼーっとしていることが多い”と周りからよく言われていました。
- ⑤ 先生方には、お仕事の合間に私の絵を見て、ふーっと力を抜き、心む時間を作るお手伝いができれば…と思います。



小野孝一さんの作品
「3月・花」
絵サイズ：6号
アクリル絵具使用

information

ブロックン ブロック新種募集 優秀賞発表

『カラス』 星野奈保子 様

審査の結果、ジャクエツ社員も気が付かなかったニュー・バージョンの組み合わせとして「カラス」が選ばれました！おめでとうございます。



さみどりフェア2005 開催！ 2005年7月20日(水)～9月25日(日)

さみどり保育園・第二早翠幼稚園の見学に併せて、本社屋内・屋外展示場では新商品を多数展示して、みなさまのご来場を心よりお待ちしております。

内容：デザイナーズ遊具展示発表
安全・安心 屋内備品新提案
実演：緊急連絡対応「かんたんメール」
美術工芸の旅 同時開催中



発見いっぱい穴あきブロックパズル キッズブロックパズル

丸紙管（6種/120ピース） 角紙管（11種/76ピース） アングル（2種/12ピース） 合計19種/208ピース



ジャクエツ

www.jakuetsu.co.jp

ジャクエツのマークは幼児の安全・安心をお約束する印です。